

◇北国の家づくり◇

夏と冬では地盤面（GL）の高さが異なる

「ファースの家」は全国各地に建築されていますが、私のように北海道の寒冷地で家づくりの現場管理を行っていますと、本州との違いが大きいように思います。

北海道は、冬季間になると地盤面が凍って膨れ上がり夏よりも、10 cm以上も高くなります。つまり、夏と冬の地盤面が上がったり下がったりしていることとなります。凍結深度と云いますが北海道の最も凍結震度の深い地域では120cmも凍ってしまう所もあります。

自治体ごとに水道管などの埋込深さを定めており、凍結深度の下まで埋めなければなりません。私が現場管理を行う福地建装ハウジング事業部の「フクチホーム」のある北斗市は、凍結深度を60cmと定めております。

基礎の底辺も60cm以下になるようにしなければなりません。縁側の外に打ち込む犬走なども、基礎から突き出た先を地盤面の60cm下部まで掘り下げておきます。

また厚さ120mmのコンクリートの場合は、冷気がコンクリートを通し、下部の地盤面の凍結浮上を起こすため、コンクリートの下部にスチレンホーム断熱材を敷き込む場合もあります。

◇冬季間の施工現場◇

冬季間の基礎工事

北海道では、出来るだけ地盤面の凍結の始まらない年末までのうちに基礎工事を済ませておく事が必要です。

都合によって年明けに施工を開始する工事もありますが、根掘りを行った後には、地盤面が凍らないような完全養生を行う必要があります。

昨今は、ビデ足場で囲い込みシートで完全養生し、ジェットヒーターを24時間稼働させるなどで冬季間施工も行えるようになりましたが、その分の養生費や燃料費は余分に費やす事は云うまでもありません。

それでも北海道の冬季間は、仕事量が極端に少なくなるため、余分に費用が掛かったとしても、人件費を安価に抑えることが出来るため、冬季間に施工する家づくりも少なくありません。

北海道の家づくりでは、基礎工事の根掘りが確実に1m以上の掘り込みが必要であり、本州より基礎施工の費用負担は確実に多くなります。

しかし屋根の殆どがトタン葺なので瓦葺仕様の多い本州とは、はるかに屋根施工費用を安価に済ませているようです。

◇協力業者さまとのコラボレーション◇

工期短縮を協力業者との連携で

北海道で地盤面の凍結浮上が収まるのは4月に入ってからになります。3月中に基礎工事を行う場合は、地盤面が凍って岩盤のようになっている場合があるからです。7ヶ月後の11月には雪が降り出すため、家一棟の工期平均を、2ヶ月程度を目途にする必要があります。

そのため協力業者様との連携は必須となるため、技術確認や工程確認を頻繁に行う事になります。

1棟ごとに開催の着工研修会

フクチホームは、現場施工に携わる大工さん、協力業者さん、納材業者さんや設計担当者などを、お施主様ご家族にご紹介する「着工研修会」を1棟ごとに必ず開催しております。ファース本部のマニュアルにも記載されており、ファース・グループ工務店様も開催している所も多いようです。

お施主様と不思議なご縁で家づくりの契約に至りますが、設計、施工そして、出来て住んでからも様々な出来事があり、その多くが現場に携わる協力業者さんとの連携が基本となっております。

着工研修会では、工事現場の状況や工程確認などの他にもっと大切な事項として協力業者さんや大工さんを一人ひとり丁寧にお施主様ご家族に紹介します。

施工中や施工後においても施工工務店、協力業者とお施主様との信頼関係の維持を保全することにとっても効果的です。（著・ハウジング事業部 小泉泰久）

幸太の知恵袋

口内炎には米酢でうがい

うっかり口の中を噛んじゃったりして、口内炎がでちゃったって？
痛いんだよねえ。

そんなときは、米酢を口に含んでうがいをすると、早く治るよ。
酢には殺菌作用があって、口内炎に付いたバイキンを少なくしてくれるからね。米酢そのままだと酸っぱすぎる、という人なら、ちょっと水で薄めると良いよ。